



吉川 洋 (YOSHIKAWA Hiroshi)

東京大学名誉教授
立正大学経済学部 教授

東京大学経済学部卒業、
イェール大学大学院博士課程修了。
Ph.D.

ニューヨーク州立大学助教授、大阪大学社会経済研究所助教授、東京大学経済学部助教授、同経済学部教授、同経済学研究科教授 (2009 ~2011 年 経済学研究科長) を経て 2016 年 4 月から現職。

専門はマクロ経済学。ケインズ経済学的なマクロ経済理論と、日本経済とりわけ 1990 年代の日本経済の分析を主たる研究課題としてきた。最近は高齢化が急速に進む日本経済の潜在成長率は何%であるかという問題と、マクロ経済学への統計力学的アプローチに関心をもっている。

主な著書に『人口と日本経済—長寿、イノベーション、経済成長』(中公新書、2016 年)、『デフレーション—“日本の慢性病”の全貌を解明する』(日本経済新聞出版社、2013 年)、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ—有効需要とイノベーションの経済学』(ダイヤモンド社、2009 年)、『Reconstructing Macroeconomics: A Perspective from Statistical Physics and Combinatorial Stochastic Processes』(Cambridge University Press, 2007, with Masanao Aoki)、『Macroeconomics and the Japanese Economy』(Oxford University Press)、『金融政策と日本経済』(日本経済新聞社)、『高度成長』(読売新聞社)、『転換期の日本経済』(岩波書店、第 1 回読売吉野作造賞受賞)、『現代マクロ経済学』(創文社)、『ゼロ金利と日本経済』(日本経済新聞社、共編)、『マクロ経済学(第 4 版)』(岩波書店)、『Japan's Lost Decade』(Tokyo: The International House of Japan)、『構造改革と日本経済』(岩波書店)、など他多数。

また、“On the Equilibrium Yen Dollar Rate,” (American Economic Review, 80(3), June 1990)、"The Role of Demand in Macroeconomics," (Japanese Economic Review Vol. 54, No. 1,p.1-27, 2003) など、国内外で論文を多数発表。

学外の役職では、2001—06 年および 2008—09 年に経済財政諮問会議民間議員、2008 年に社会保障国民会議座長などを歴任。現在、財政制度等審議会会長。
紫綬褒章受章 (2010 年)。